外部検討委員会 部会（第２回）の開催結果

スマート農業等の先端技術の研究開発動向や企業連携の状況

○開催日：10 月 12 日（金）

○場　所：山口県農林総合技術センター

○講　師：農業・食品産業技術総合研究機構　企画調整部長　中島 隆　氏

○事例紹介

・先端技術の開発・導入には、大学、研究機関、民間、生産現場がそれぞれ役割を担いながら、基礎から実証、実用化まで連携した取組が重要。

・農研機構では基礎から実用化までの各段階すべてのデータを自動的に集積し、これをＡＩで解析し、フィードバックする「農業データ連携基盤」を整備中。

・大規模な現場では、先端技術を活用して匠の技の見える化を図り、熟練者以上の精度とスピードで農作業を可能とする技術や、条件不利地域では、アシストスーツや、ドローンを活用した農薬散布等の技術を開発中。

・先端技術を生産から出荷まで体系的に組み立て、これを一気通貫で実証するとともに、現場ニーズに照らして評価した上で、速やかに普及させることが重要。

○意見交換

・先端技術の導入に際しては、現場の実情に照らして、必要な機能のみを備えた機械の開発が必要であり、これにより機械の低廉化も可能。

・先端技術の導入には価格面でハードルが高いので、現場実証支援のような行政のサポートにより、まずは普及を促進することが必要。

・地上レーザー測量等により森林資源の量を把握することが可能となったが、一方で、匠の技を提供する者の知的所有権の保護や、森林経営の情報保護など制度面での対策が必要。